

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091100196		
法人名	営利法人 有限会社 築瀬の郷		
事業所名	グループホーム沙羅林築瀬の郷		
所在地	群馬県安中市築瀬194-6		
自己評価作成日	令和1年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和1年12月6日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとしての在り方を考え、個人の出来ること、出来ないことの把握に努め、出来ることの範囲を広げるためには、又できないことのフォロー方法を職員間で共有し、日々支援にあたっている。毎月の工作に力を入れ、時間がかかっても1つの作品を個人個人に作っていただき、御家族のもとに写真をつけ、1ヶ月のご様子を記載し送付している。利用者様の共同作業の場を作ることに日々努力している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの尊厳を大切に、グループホームの特徴を活かした支援に努めている。町内の清掃活動や廃品回収などへの参加を行ったり、回覧板が廻り、お花見の招待を受けたりなど、地域と交流が行われている。介護計画作成においては計画作成担当者が自宅を訪問し、直接家族の意見や要望を聞くなど家族との意思疎通を図りながら取り組んでいる。その他、医療面では、馴染みのかかりつけ医への送迎を含め受診を支援し、それぞれの医師との協力関係により、地域のなかで利用者、家族等が安心して暮らし続けられるような支援の提供に取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念は玄関先、事務所に掲示し、職員が常に確認できるようにしている。	法人が運営する併設施設との共通の理念は日々ケアするうえで常に意識し、グループホームの特徴を活かした支援の提供について話し合い取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回してもらっている。地区のイベントに利用者をおつれしている。地区の清掃行事、廃品回収に参加している。	地域の回覧板が廻り、地域の清掃や廃品回収に参加し交流している。また、地域のお花見や市主催の仮装行列を利用者は毎年見学を楽しみ、職員がボランティアで参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口になるための研修を受け、玄関にステッカーを張っている。運営推進会議時を活用し、事業所ではどのような支援を行っているかを説明する機会も設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には事業所職員も自主的に参加し、意見は聞ける体制を取り、職員会議時に検討し、改善等話し合いを行っている。	会議は2ヶ月ごとに開催し、家族・地域代表・市職員の他に、近隣住民の方数名が参加している。会議では、事業所の活動報告や利用者の状況等により、意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に感じる点、質問はすぐに問い合わせ、回答をもらうことを心がけている。	市の担当者とは、運営推進会議の他に、日頃から運営上の不明な点等の場合には電話や直接出向いて相談などを行い、協力関係が築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会設置において、職員の知識向上のため、権利擁護推進員養成研修を修了しているものが職場内研修を行っている。	身体拘束に関する外部研修への参加や事業所内研修を行い、職員間で話し合い共有している。また、家族に身体拘束をしないケアについて説明を行い、実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える虐待は当然であるが、とっさの言葉によるもの、何気ない行動、それらの中にも虐待に当たるものがある、という認識を常に持ち職員間でも、こういう対応はと質問できる体制である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解はしている。それらを活用できる職員は全員ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族、ケアマネ、管理者出席で契約書、重要事項説明書をご家族に理解いただくまで時間をかけ説明を行っている。ご利用者となる方には不安感を取り除ける様な細かな説明、対応を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアマネがご自宅への訪問時、管理者が同行し、相談を受ける機会を設けたり、御家族の面会時に出来るだけ話を伺える状況を作っている。	家族の面会時に、直接意見や要望を聞くようにしている。また、介護計画作成時等において計画作成担当者が自宅を訪問し、家族との意思疎通を図りながら取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、代表、管理者は職員が話し易い場にし、様々な意見を聞けるよう努めている。	毎月の職員会議で、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、日々のミーティング時など、その都度意見交換や話し合いが行われている。代表者、管理者は意見や提案を検討し、設備面など、可能なことは実現を行い、意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に指摘されることに気を取られるのではなく、職員は仲間意識と向上心をもって日々の業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加はもちろん、資格取得には力をいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換できるであろう場合には職員を積極的に参加させる体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階以前にケアマネ、管理者、必要と判断した場合は看護師がお会いし、話を聞く機会を設け、打ち解けていただく努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にお聞きしている情報は全職員が把握できる様努めている。そのことにより、どの職員が対応しても受け止められている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の聞き取りにより、得た情報をもとに全職員が都度対応できる体制を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上での出来ることは職員とともに行っていたりしている。時には職員のわからないことを教えてもらえるような会話運びも行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が毎月、順番に担当を決めその方の様子をご家族に書面で送付している。それにより面会時にはどの職員にもご家族は気軽に話かけてくれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来た方への配慮を心がけ、関係が途切れないよう努めている。美容院は行きつけの場所へお連れしている。	家族の他に、友人・知人等が面会に訪れており、面会者との交流が途切れないよう配慮している。また、希望時は馴染みの美容院などへの送迎を行い、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内での座る場所にこだわらず、臨機応変に対応し、共同作業できる環境に都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了となっても、御家族と施設という関係ではなく、地域の方、タオルを寄付して下さったり、慰問にきていたり、と良好な関係を築けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今、どの様にすごしたいのか、今何を望んでいるのか、それが可能なことであるなら対応している。	日々、一人ひとりの表情などを観察し思いや意向の把握に努め、可能なことは対応に努めている。意思疎通が困難な場合には生活歴や家族の意見を参考に、職員間で話し合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴はケアマネが聞き取りを事前に行い、職員が目を通せるよう個人ファイルにとじてあり、把握できる体制を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は毎日ミーティングを欠かさず行い、状態の確認をおこなっている。そのことをすべて記載し、全職員が必ず読み、休みでも様子がわかるような体制にある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議時はお一人お一人について必ず話し合い、ケアマネはその情報をもとに、モニタリングをし、モニタリングの結果、問題点は再度職員間に戻し、検討する。	担当制をとり、担当職員を中心に本人・家族の意見を反映させ、暫定プランを作成し、家族を交えた担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。また、モニタリングにおいて変更部分は職員間で話し合い、共有している。	日々の支援記録と介護計画が連動された書式となるような記録方法について検討されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティング、月1回の職員会議の場は共有する、ということにとても有効な方法にある。個別記録が個人ファイルのみでなく、職員が必ず把握できる体制にある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日出勤の職員がすぐに対応できるようにリーダーとなる職員を決め、即座の判断で対応できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベント、行事等で安全面の確保をし、ご利用者をお連れするを行い外出の機会を作り、社会の中で生きていることを感じてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時には必ず医療機関の希望を聞いている。かかりつけ医の変更を施設側から提案してはいない。	事業所の協力医か、本人の馴染みのかかりつけ医の受診かを、入居時に選ぶことができる。協力医の場合は往診を受けることができ、馴染みのかかりつけ医の場合は職員が送迎している。受診結果は家族に報告し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師は24時間体制で連絡を取れる体制である。ご利用者の体調は看護師により管理され、共有しているため変化にはすぐに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院に訪問している。ケアマネは医療連携の会議、講習会等に参加をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・週末期についての指針を作成し、入所時契約を行う際に本人、家族に施設の指針を説明し同意いただいている。	契約時に、事業所の「重度化対応及び看取りに関する指針」により、説明している。重度化や終末期などにおいては家族の希望を聞きながら医師、看護師などとの連携により、事業所として出来る限りの支援を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習に職員の参加を積極的に行っている。ご利用者の傷病で、おこる状態、症状は看護師より都度申し送りがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自の防災マニュアルは作成している。地域の災害時の避難場所も推進会議時に地域の方々と話し合いをしている。	消防署立ち合いのもとに、併設施設との合同により夜間想定での避難訓練を行っている。飲水・食料品を、備蓄している。また、災害の際には、事業所を地域の避難場所としてもらうことを、検討中である。	さらに、具体的な地域との協力体制が築かれるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護、支援で職員同士注意し合うことが出来ているように感じている。1対1となり夢中になってしまうと気付けない部分が出てくるが、他の職員からは判断がつく。	一人ひとりを尊重し、自己決定の支援に心がけている。職員は外部研修への参加や日々ケアするうえでの気づきなどを、その都度話し合い支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選んでいただく、ということを常に心がけ様々な場面で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方はその日により異なっている。天気の良い日は庭にでたり、散歩したり日々のレクリエーションには体調や状況で自由に参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、髭そり、気候に合った服装、その方の服の色合わせにも気を配っている。着たいものも聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは実際困難を極める状況であるため、週1回のおやつ作りをホールでおこなっている。食べたいものを聞き、ご利用者と一緒に作り食べている。	食事は、献立・食材共に業者を利用している。利用者の希望を聞きながら、職員と一緒に季節のお団子やおはぎづくり、行事食の年越しそばやおせち料理などを取り入れ、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせた食事形態を提供し、好みを重視し、代替えも常に常備している。食べることの楽しみを損なわない努力をしている。水分不足にはいくつかの種類の好みのもも用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に出る口腔ケアの力を把握し、出来ないところは介助しながら、毎食後の口腔ケアは欠かさない。入れ歯洗浄も欠かさない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの方でも立位が出来る状態であれば、日中はリハビリパンツでトイレ介助を心みている。	日中は見守りを重視し、トイレ誘導、介助を行い支援している。退院後には、トイレ誘導、介助などを支援し、トイレでの排泄が可能になった方がいるなど、トイレでの自立した排泄の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事、牛乳を毎日飲む習慣、水分不足を防ぐ努力を行っている。排便の様子観察は毎日職員間で共有し、報告を欠かさない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本とし、排便時の処置に入浴した方がいいと判断すれば、時間を問わず、おこなっている。皮膚の状態を毎日入浴が効果的であれば対応している。	入浴は、一日おきを基本としているが、希望時は毎日入浴ができるよう柔軟に対応している。季節の菖蒲湯、ゆず湯などにより、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けていない。寝付けない時があれば、ホールで職員と深夜でも過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員管理のもと、個人ファイル、薬のホルダーにも説明書をおき、すぐ職員が確認できるようにしている。また基礎的な内服薬の研修に職員は順次参加している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴をもとに、得意なことを日々の中から探して、職員間で報告しあっている。その情報をもとにレクリエーションで実際に取り入れてみている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出ることは出来るだけ実行している。	天気の良い日は、苑庭や近隣を散歩している。季節の花見や梨狩りなどに出掛けたり、個別に菊花展に出かけたりなど、外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者、御家族の希望があれば、大金でないかぎり、管理保管もし、美容院、病院等に現金で支払うことも支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもおつなぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃はこまめに行い、きれいな状態を心がけている。トイレの臭いも気をつけている。玄関には花を飾ることが多くある。	木材を基調とした共用の居間は、清潔感を感じ、車いすの方が安全に往来できるような配慮を行っている。壁面には皆で楽しめるよう外出時の写真や利用者の作品などが、飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本は思い思いに過ごしていただける様に配慮している。無理に集団行動は行わない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものは大きなものでなければ持ち込んでいただいている。電化製品も危険がなければ使用していただいている。	本人の馴染みの物などの持ち込みは自由であり、ラジオや使い慣れた羽毛布団を持ち込まれている方もいる。家族の写真や本人の作品などが飾られ、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部の手すりのゆるみ、壊れたものはないか、清掃しながら確認している。見守りしながら、危険だからと制止はしないよう心がけている。		